

事業コード	R4-建-継-01			区 分	● 国庫補助 ○ 県単独
事業名	地方街路交付金事業			部局課室名	建設部 都市計画課
事業種別	現道拡幅			班 名	都市整備班 (tel)018-860-2443
路線名等	都市計画道路 新屋土崎線			担当課長名	都市計画課長 鈴木 護
箇所名	秋田市旭南			担当者名	主幹(兼)班長 菊池 明彦
プランとの 関連	戦略コード	04	戦 略 名	未来創造・地域社会戦略	
	目指す姿コード	04	目 指 す 姿 名	変革する時代に対応した地域社会の構築	
	方向性コード	04	施 策 の 方 向 性	持続可能でコンパクトなまちづくり	

1. 事業の概要

事業期間	H27 ~ R8 (12年)	総事業費	41.0 億円	国庫補助率	65.65	
事業規模	○延長L=1,125m ○幅員W=13.0(20.0)m					
事業の立案 に至る背景	(都)新屋土崎線(県道名:(主)秋田天王線)の秋田市旭南は、秋田市都心部を南北に縦断し、秋田市の骨格を形成する主要な幹線道路の1つとして、分散導入路にも位置付けられる重要な路線である。そのため、秋田市内でも交通量が特に多い路線であるが、前後の4車線に対し、当該区間が3車線のボトルネック区間となっていることから、慢性的な交通渋滞が発生しており、都市内交通の円滑化が課題となっている。また、本路線は旭南小学校の通学路に指定されているが、幅員は最小で1.6m程度であり、通学児童の安全確保が急務となっている。そのため、現道拡幅により、交通渋滞の緩和による都市内交通の円滑化、及び、安全・安心な通学路整備並びに、無電柱化による良好な沿道環境の形成を図る。					
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・バス交通を含めた都市内交通の円滑性確保を図る ・通学路の安全確保を図る ・無電柱化により、県庁、市役所や旭南小学校、旭北小学校などの指定緊急避難所(避難所)及び秋田市立総合病院への第二次緊急輸送道路としての防災機能の向上を図る 					
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)			前回評価	今回評価	増 減	理 由 等
	事業費		3,200,000	4,100,000	900,000	
	内 訳	工事費	1,016,300	1,371,910	355,610	電線共同溝設計完了に伴う管路等の増による 土地建物調査結果に伴う用地補償関係者の増による 土地建物調査結果に伴う用地補償関係者の建物調査の増による
		用補費	2,057,300	2,204,906	147,606	
		その他	126,400	523,184	396,784	
	財 源 内 訳	国庫補助	2,094,400	2,683,450	589,050	
		県 債	887,040	1,056,400	169,360	
そ の 他		120,000	246,000	126,000		
一般財源		98,560	114,150	15,590		
事業内容	現道拡幅 L=1,125m W=20.0m	現道拡幅 L=1,125m W=20.0m				
事業の進捗 状況	令和3年度末で事業進捗率は63%(用地買収進捗率は97%)であり、概ね計画通り進捗している。					
事業推進上の 課題	特になし					
関連する計画等	<ul style="list-style-type: none"> ・秋田都市計画区域マスタープラン(県策定) ・秋田市総合都市計画(市策定) 					
情勢の変化 及び長期継続の理由	用地買収の遅れにより、期間延伸を行ったが、概ね完了したことで、今後は計画通り進捗する見込みである。					
事業効果把握の手法及び効果	指 標 名	都市計画道路整備率				
	指 標 式	整備済延長/都市計画決定延長				
	指 標 の 種 類	○ 成果指標	● 業績指標	低減指標の有無	○ 有 ● 無	
	目 標 値 a	67.7%		データ等の出典	秋田県の都市計画	
	実 績 値 b	67.7%		把握の時期	令和4年9月	
達成率 b/a	100%					

前回評価結果等	<input checked="" type="radio"/> 選定または継続 <input type="radio"/> 改善 <input type="radio"/> 見直し <input type="radio"/> 保留または中止
	①指摘事項
	②指摘事項への対応

2. 所管課の自己評価

観 点	評価の内容 (特記事項)	評 価 点
必 要 性	秋田市都心部を南北に縦断し、秋田市の骨格を形成する主要な幹線道路の1つとして、分散導入路にも位置付けられる重要な路線であるが、慢性的な渋滞が発生しており、交通の円滑化が必要である。【混雑度：1.20 (H27センサス)。主要渋滞箇所：2箇所】 通学路に指定されているが、幅員が最小幅員が1.6mと狭隘な区間もあるなど、児童の安全・安心な通学のため必要である。	28点
緊 急 性	災害時における第二次緊急輸送道路に指定され、県庁、市役所や沿線の旭南小学校、旭北小学校などの指定緊急避難所 (避難所) 及び秋田市立総合病院へのアクセスのため、防災機能向上を図る。	10点
有 効 性	交通の円滑化により、各交通拠点 (駅、港、高速IC) や主要な観光地 (千秋公園、なかいち等) 並びに、中心市街地へのアクセスが改善され、物流の高度化も期待される。 また、無電柱化や歩道の拡幅により、安全で快適な、利便性の高い高質な生活環境が創設され、魅力のあるまちづくりを行うとともに、沿線市街地の活性化を推進する。	23点
効 率 性	事業の費用便益費は (B/C) は2.0であり効率性は高い。 ・総費用の現在価値C 39.88億円 ・総便益の現在価値C 79.63億円 現場発生材の再資源化や電線共同溝の角形多条管 (FEP管) を採用し、リサイクルやコスト削減に努めている。	20点
熟 度	令和3年度末の事業進捗率は63% (用地取得率は97%) であり、概ね計画通り進捗している。 また、道路整備に対し、地元市から早期完成の要望もあり、協力体制が得られている。	12点
判 定	ランク (● I ○ II ○ III) 必要性、緊急性、有効性が高く事業は引き続き実施すべきである。	93点
総合評価	<input checked="" type="radio"/> 継続 <input type="radio"/> 改善して継続 <input type="radio"/> 見直し <input type="radio"/> 中止 事業継続は妥当である。	

3. 評価結果の当該事業への反映状況等 (対応方針)

コスト削減に努めながら、事業を継続する。

4. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を可とする。

公共事業箇所評価基準

評価種別 継続箇所評価
適用基準名 街路事業

事業コード (R4-建-継-01)
箇所名 ((都) 新屋土崎線 (旭南))

1. 評価内訳

観点	評価項目	細別	評価基準	配点	評価点	摘要
必要性	都市計画道路の規模及び機能	道路の規模及び分類	幹線街路	4	4	3.4.11新屋土崎線
			補助幹線街路	2		
			上記以外の補助幹線街路など	0		
	都市構造上の機能	環状道路、放射道路 (分散導入路を含む)	上記道路を補完する道路	4	4	分散導入路
			その他の道路	2		
				0		
	現況道路における問題箇所	道路環境上の欠陥該当項目 (現道の混雑度 \geq 1.0又は 渋滞解消・緩和に効果のある道路)	該当	4	4	混雑度1.20(H27センサ) 渋滞対策協議会 旭南1丁目、山王5丁目交差点
			非該当	0		
		狭隘道路・線形不良・勾配不良 (1車線道路又は一方通行道路) (歩道等が無い又は規定幅員がとれていない)	2項目以上該当	4	2	歩道最小幅員1.6m
			1項目該当	2		
			該当項目なし	0		
		バス路線	該当	4	4	秋田中央交通
			非該当	0		
		通学路指定	該当	4	4	学校指定 (旭南小)
			非該当	0		
		人身事故発生地点	該当	4	4	事故有り
			非該当	0		
		交通状況の変化	事業の目的が失われるような交通 状況の変化はない(交通量、渋滞長等)	該当	2	2
	非該当			0		
	計			30	28	
緊急性	防災機能向上への貢献度	緊急輸送道路	2項目以上該当	7	7	緊急輸送道路 無電柱化計画
		老朽橋梁又は耐震性の劣る橋梁の架替・補強 ・延焼防止(現況幅員W<12m→拡幅後W \geq 12m) ・無電柱化計画	1項目該当	5		
			該当項目なし	0		
			事業を取り巻く環境			
	公共公益施設等アクセス (市町村役場・医療機関・学校・公民館など)	該当	3	3	秋田市役所、市立秋田総合病院 旭北小、旭南小、山王中	
		非該当	0			
	計	10	10			
有効性	市街地の活性化とまちづくりへの貢献度	2項目以上該当	10	10	DID区域内 近隣商業地域 無電柱化による景観配慮	
		1項目該当	5			
		景観、中心市街地の活性化やまちづくりに資する				
		商業地域又は近隣商業地域内				
	物流の高度化と交流の円滑化への貢献度	2項目以上該当	5	5	秋田中央IC、秋田北IC 秋田港 秋田駅 千秋公園、なかいかち等	
		1項目該当	3			
		新幹線駅又は特急停車駅へのアクセス	0			
		主要な観光地へのアクセス				
	安全で快適な生活環境への貢献度	2項目以上該当	5	3	無電柱化(バリアフリー)	
		1項目該当	3			
		耐雪幅の確保	0			
	社会情勢の変化	社会情勢の変化による事業の有効性	有効性が高い	5	5	幹線街路、分散導入路として、依然として有効性が高い
低下傾向			3			
有効性が低い			0			
計	25	23				
効率性	事業の投資効果等	費用便益比(B/C)	1.0以上	5	5	B/C=2.0
			1.0未満	0		
	計画交通量	10,000台/日以上	5	5	26,900台/日	
		4,000台/日以上10,000台/日未満	3			
		1,000台/日以上4,000台/日未満	2			
		1,000台/日未満	0			
	コスト縮減・リサイクル推進貢献度	2項目以上該当	5	5	電線共同溝のコスト縮減 再資源化、適正処理 再生骨材使用	
		1項目該当	3			
		リサイクル製品、再生骨材等の使用	0			
		新工法・新技術の採用				
事業中止又は休止による影響	事業を中止・休止した場合の成果に対する影響	代替手段がなく、影響が大きい	5	5	幹線街路、分散導入路として、代替路線はない	
		代替手段はあるが、影響が大きい	3			
		代替手段があり、影響が小さい	0			
計	20	20				

公共事業箇所評価基準

評価種別 継続箇所評価
適用基準名 街路事業

事業コード (R4-建-継-01)
箇所名 ((都) 新屋土崎線 (旭南))

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要	
熟 度	事業の進捗状況					
	事業進捗率 (事業費ベース)	8割以上完了	5	4	R3末：2,600/4,100×100≒63%	
		5割以上完了	4			
		1割以上完了	2			
		1割未満	0			
	用地買収進捗率 (用地面積ベース)	8割以上完了	5	5	R3末：97%	
		5割以上完了	4			
		1割以上完了	2			
		1割未満	0			
	地域の協力体制					
	<ul style="list-style-type: none"> 事業推進のための各種協議会等が設置されている 地域住民の取り組みが積極的である 市町村自ら積極的に用地交渉など事業の推進に関与している 地元要望がある 	2項目以上該当	5	3	地元要望書有り	
		1項目該当	3			
		該当項目なし	0			
計		15	12			
合 計			100	93		

2. 判 定

ランク	判定内容	配 点	判定	摘 要
I	優先度がかなり高い	80点以上	I	
II	優先度が高い	60点以上80点未満		
III	優先度が低い	60点未満		